

脳卒中に係る地域連携クリティカルパスの運用状況把握のための調査結果について

1 調査の概要

【 目的 】 第2期福岡県循環器病対策推進計画では、「かかりつけ医の機能強化と多職種支援の充実を図るため、地域連携クリティカルパス(地域連携診療計画)等の活用状況の把握に努め、今後の効果的な活用方法について検討」することとしている。現在、県内における地域連携クリティカルパス(以下、「地域連携パス」という。)の活用状況が把握されていないことから、脳卒中に係る地域連携パスの運用状況把握のための調査を実施したものを。

【 調査先 】 46施設(一次脳卒中センター 45施設、久留米大学病院)

【 調査票 】 資料3-②のとおり

【 調査期間 】 令和7年3月13日(木)～5月30日(金)

2 調査の結果・詳細は資料3-③参照

【 回答状況 】 回答施設数 20施設(回答率:43.5%)

内訳:導入有 15施設、導入無 4施設(うち1施設は令和3年度まで導入有)、検討中 1施設

【 結果概要 】 ・北九州地区、福岡地区、筑紫地区、筑後地区において、地域医師会等が事務局となり、運用されていた。

・運用する上での課題として、主に下記の4点が挙げられた。

課題①:回復期病院転院後の活用状況の把握ができていない。

課題②:転院先が地域連携パスを活用していない。

課題③:退院支援加算の算定要件(施設基準)を満たすことが難しい。

課題④:地域連携パスの作成に手間がかかる。

	運用する上での課題(一部抜粋)
地域連携パス導入有	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期病院に転院後、自宅退院や施設入所となった後に急性期病院へのフィードバックが少なく、状況の把握が難しい。・・課題① ・連携先を退院するときに診療情報提供書をいただくが、地域連携パスは活用されていないことが多い。・・課題② ・転院後に地域連携パスがどのように活用されているかが不明である。・・課題① ・連携機関との面会の機会がないため、訪問したりZOOM会議を調整する必要があり、労力を要する。・・課題③ ・入院時より同意書取得・パスシート記入を行っても、運用していない回復期病院や県外の回復期病院へ転院することが多い。・・課題② ・医療現場の日常診療の中で、複数人で作成するパスは、一般的な文書を上回る入力負担がある。・・課題④
地域連携パス導入無	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスの作成が煩雑である。・・課題④ ・連携担当者の確保ができず、退院支援加算Ⅰの算定要件を満たさない。・・課題③ ・地域連携パスの運用なしでも転院の際に不具合がない。・・課題④
検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・連携機関との面会が難しい。・・課題③ ・可能であれば、地域の統一した地域連携パスをWebで入力することでいつでも閲覧できるようにするなど、簡便な方法を検討していただきたい。